

日本中医学会

< 中医総合診療研究会 >

設立のお知らせ

臨床現場に新しい潮流が起きています。病院や大学医局の壁を越えて、また地域をも越えて、各地で「臨床推論」のための総合診療カンファレンス（総合診療症例検討会）が毎日のように開催されています。所属に関わりなく、年齢に関わりなく、権威に関係なく、平等に参加して学び合う新たな医療文化が形づくられようとしています。かつての日本の医療界ではとうてい考えもできなかった自由な学風が吹いていて、医療を良くしたい、臨床に還元したいといった想いの若い医療人とその指導医たちの熱意が表れています。NHKで放映されている「ドクターG」（General；総合診療医の意味）の放映もこの潮流が起きたからこそ企画できて、6年も連続して放映されているのでしょう。

振り返って東洋医学界ではどうでしょうか。そもそも、東洋医学は、生活に密着した医療であり、プライマリケアそのものであると認識されています。人間を丸ごと診る「全人的医療」であるので、今のブームよりも遙かに先立って行われていた先輩格である総合診療そのものであるはずです。

医療現場の実際では東西両医学からの医療推論が必要であることは、日々の臨床を実践していれば、自ずと納得することです。例えば胸痛の患者が来院すれば、虚血性心疾患、肺塞栓、大動脈解離を念頭に診療しない医療者はいません。また患者が膠原病、虫垂炎、脊柱管狭窄症と判明した途端に、西洋医学概念のくさびから逃れることはできません。患者のためにこそ東西両医学からの医療推論の確立が急務です。

近年来、総合診療からの東洋医学への関心が確実に高まって来ています。医療雑誌に漢方薬の処方例が多数掲載されている一方で、中医学側からの明確な応答が、例えば感冒の治療ひとつとっても十分になされているとは思えません。私たちは東西両医学からのアプローチを踏まえた「中医学の臨床推論」の場を作り上げて、西からの私たちに向かって来る風に呼応したいと考えました。そこで、昨年末から有志と話し合いを重ねて、この度準備を進めて< 中医学会総合診療研究会 >を立ち上げました。

「中医学の臨床推論」を確立するために、『素問；上古天真論』から文言を借りて言いあらわすと「愚智賢不肖、高下不相慕、故合於道」の精神であり、皆が気楽に参加できる研修会を目指して行きたい所存です。

2015年5月吉日

発起人：石川家明、木村朗子、瀬尾港二、山本勝司

【臨床推論とは】

臨床現場において、患者に対してより賢明で合理的な診療を行うための診療上における医療者の持つ「考えるプロセス」のこと。類語に「診断推論」があるが、臨床のエキスパートが患者から適確な情報を得て、診断に導く思考プロセスのこと。両者は混同されて使われることが多いが、「診断推論」は診断に導く過程に特化されることがあるため「臨床推論」の概念の方が大きい。「医療面接」上で問診からえられる病歴を大切に、身体所見や検査データを加えた所見から、病態生理を組み立て、臨床診断に至る過程を踏む分析的な方法と、名人に見られる確かな臨床知（十分な知識と直感と経験）を駆使したパターン認識の方法がある。病態生理をしっかり持つ中医学こそ、分析的なアプローチの臨床推論が行いやすいと考える。

【臨床推論を踏まえた総合診療カンファレンスとは】

従来のカンファレンス（症例検討）とは違って、あたかも自分の前に現れた初診の患者を診るがごとくに追体験をする方法である。症例提示者しか患者の全体像は分からず、参加者は予備知識なく症例に向き合う。提示者は病歴や身体所見などを少しずつだして、治療者（参加者）に次の一手を考えさせる。まさに、治療者が臨床において考えているそのプロセスをおおやけの場で明らかにする訓練である。

生涯において医療者一人で遭遇する症例数は知れており、疑似体験を通じて「疑似症例経験」を増やすことにより、臨床能力は向上して臨床知は深まると考えられている。また、従来のカンファレンス同様に1つの症例を深く掘り下げることにも寄与する研修方法でもある。

【今後の定期開催日と会場】

毎月第3木曜日（原則、必ずお問い合わせください。）

会場と連絡先：アキュサリユート高輪、東京都港区高輪 4-8-23 エスパシオ高輪 102号 瀬尾港二 jtcmasogoinryo@gmail.com

【当面の方針】

当面は、助走段階として「勉強会」形式で行います。東西両医学からみた臨床推論を目指すため、1つの症例で西洋医学的アプローチを最初に行い、次に中医学的アプローチを試みます。治療法は西洋医学の治療、湯液治療、鍼灸治療を順次考えます。総合診療への貢献を考えて、湯液療法はエキス剤とします。また、当面は「臨床推論」の方法論そのものも学ぶ講座を同時に行います。

【第1回中医総合診療研究会の報告】

日時：2015年5月14日

1. 設立の経緯

2. 症例：49歳女性易疲労感（西洋医学編） 木村朗子

記念すべき第1回の中医学総合診療研究会は、設立の経緯を確認後に症例検討会を開始しました。症例は49歳女性、易疲労感の主訴で来院した患者でした。西洋医学だけではなかなかうまくいかない、東洋医学だけでは危険な疾患を鑑別できない、けれど両面からの臨床推論で両者の短所を補い合い、治療効果や満足度を高め合うことができます。初回は症例を通じて西洋医学的アプローチを俯瞰しました。

<次回研究会のお知らせ>

【第2回中医総合診療研究会】

日時：6月18日（木）午後7時～10時

1. 臨床推論の方法 石川家明

2. 症例：49歳女性易疲労感（中医学編） 木村朗子

鍼灸学生、医学生、研修医の皆様也大歓迎です。初歩から学びます。お気軽
にご参加下さい。